

# 第16回年会報告

## 第16回年会報告

The 16th Annual Meeting of Japanese Society for Chemical Biology  
日本ケミカルバイオロジー学会  
**第16回年会**  
会期 2022年5月30日(月)～6月1日(水)  
会場 富山国際会議場 (〒930-8593 富山)

特別講演  
井ノ口 馨 (富山大学)

年 会 長  
友廣 岳則 (富山大学)

【招待講演】(共催者)  
市川 聡 (北海道大学) 岩井 成憲 (大阪大学)  
灰野 岳晴 (広島大学) 古田 寿昭 (東邦大学)  
山田 健一 (九州大学)

新学術領域研究「ケモユビキチン」が拓く「ユビキチンニューロンプラント」との共催でシンポジウムを開催予定です。

主催 日本ケミカルバイオロジー学会  
共催 日本化学会、日本生物化学会、日本農芸化学会、日本分子生物学会、日本分析化学会、日本薬学会、日本生体化学会、日本食品衛生学会、日本食品科学会、日本食品保蔵学会、日本食品微生物学会、日本食品包装学会、日本食品包装協会、日本食品包装学会、日本食品包装協会

〒100-0014 東京都千代田区千代田1-1-1  
Tel. 03-5776-5252 Fax. 03-5776-8808 E-mail. jscb@event.comnet.com

日本ケミカルバイオロジー学会  
第15回年会 抄録集

会期: 2021年6月21日(月)～6月23日(水)  
会場: オンライン開催

主催: 日本ケミカルバイオロジー学会  
共催: 日本化学会  
後援: 日本化学連合  
日本生化学会  
日本蛋白質科学会  
日本農芸化学会  
日本分子生物学会  
日本分析化学会  
日本薬学会  
日本薬理学会

日本ケミカルバイオロジー学会第16回年会は、2022年5月30日から6月1日の3日間、富山国際会議場にて開催されました。これまで大都市圏で開催されてきましたが、今回、初めての地方開催を富山で実施できましたことに大変誇りに思います。この2年間は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大の影響を受け、残念ながら多くの学会等と同じく本学会も延期やオンライン開催を余儀なくされました。本学会直前の日本薬学会や日本化学会の年会もオンライン開催に変更されましたが、ウィルス感染状況と、日本におけるワクチン接種の広まりと徹底したマスク・手指消毒の実施状況などを鑑み、長田裕之会長や実行委員をはじめとする関係者の方々と幾度となく検討して、現地開催の方針で進めさせて頂きました。このような状況下でも351名の方々にご参加いただきましたことに厚く御礼申し上げます。残念ながら、懇親会はオンラインも含めまして実施することは叶いませんでしたが、3年ぶりに一堂に会して笑顔で交流されているみなさまを拝祭できたことは感慨深いものがありました。今回、現地開催を実施するにあたり、みなさまには一定の参加制限をかけさせていただき、会場での新型コロナ感染防止対策として検温や手指消毒、マスク着用の徹底をお願いいたしました。ご協力いただきまして感謝申し上げます。

化学の知見を利用した、生体内物質の特異的で精度の高い定量解析法や分子操作法は、個々の生体分子の機能を正確に捉えるとともに、これまで見えなかった生体分子群の実態を示してくれます。今回は、高い分子認識や機能をもたらす特異空間創生の話に加え、優れた生命機能解析/分子操作を先導しておられる先生方に講演をお願いしました。特別講演では最後のフロンティアと言われる脳機能の新たな側面を富山大学の井ノ口薫教授に講演いただきましたが、生命科学のフロンティアを創生する上では優れたケミカルバイオロジー研究が必要不可欠であることを改めて認識させていただきました。今年会では海外の講演者招聘は見送ることになりましたが、口頭発表35題、ポスター113題の研究発表に加え、新学術領域「ケモユビキチン」との共催シンポジウムが行われ、3日間を通じて素晴らしい発表と活発な議論が交わされました。

### <特別講演>

井ノ口 馨 先生 (富山大学学術研究部医学系)  
「アイドリング脳研究：潜在意識下の脳機能を探る」

### <招待講演>

灰野 岳晴 先生（広島大学大学院先進理工系科学研究科）

「超分子により提供される不斉空間の化学」

市川 聡 先生（北海道大学大学院薬学研究院）

「プロテアソーム阻害天然物を起点とする抗がん薬リードの開発研究」

岩井 成憲 先生（大阪大学大学院基礎工学研究科）

「細胞のDNA修復能の蛍光検出」

山田 健一 先生（九州大学大学院薬学研究院）

「脂質ラジカル・酸化リン脂質の検出・構造解析、そして疾患モデルへの応用」

古田 寿昭 先生（東邦大学理学部生物分子科学科）

「細胞種選択的にはたらく遺伝子指向性ケージド化合物の開発」

また、新学術領域研究「ケモテクノロジーが拓くユビキチンニューフロンティア」  
との共催シンポジウムについては、次の先生方にご講演いただきました。

### <共催ミニシンポジウム>

佐伯 泰 先生（東京都医学総合研究所） 領域代表挨拶

石川 稔 先生（東北大学）

「標的タンパク質を分解誘導する低分子」

伊藤 拓水 先生（東京医科大学）

「セレブロンモジュレーター的作用機構の解析」

大竹 史明 先生（京都大学）

「分岐型ユビキチン鎖は標的タンパク質分解誘導剤の作用を促進する」

林 剛介 先生（関西学院大学）

「ペプチド化学と進化分子工学を駆使したユビキチン研究の新展開」

ポスター発表では吹き抜けのオープンで十分なスペースを用意し、2日間で計4つのセッションに分けて行いました。例年同様の活発な討論や情報交換が行われましたが、審査委員の先生方によりポスター賞の厳正な審査が行われ、次の4件の方々にポスター賞が授与されました。

### <ポスター賞>（敬称略）

・中根 啓太（東北大学生命科学研究科）

「高効率チロシン残基修飾技術の創出とケミカルプロテオミクスへの応用」

・岡村 秀紀（東北大学多元物質科学研究所）

「含窒素芳香環を細胞内構築できる光誘起型環化反応の開発」

・山田 創太（慶應義塾大学大学院薬学研究科）

「アルギニン密度の温度スイッチングによる細胞内取込制御」

・五木 結愛（熊本大学大学院先端科学研究部）

「新規パーキンソン病治療薬開発に向けたStaple核酸による遺伝子発現制御」

末筆で恐縮ですが、本学会開催に際し、（公財）田村科学技術振興財団をはじめ、富山県および富山市からの助成や、富山に拠点を持つ製薬／化学系企業を含めた多くの企業から協賛を賜りましたことに深く感謝いたします。また、学会初日には富山県伝統芸能の1つ「おわら風の盆」を保存会のみなさまに実演していただきましたが、（公財）富山コンベンションビューローからその補助に加え、新幹線改札口付近に歓迎看板を設置していただきました。今回の現地開催に際し、学会関係者のみなさま、富山県立大学ならびに富山大学のみなさまに温かいご支援とご高配を賜りましたことに、重ねて厚くお礼を申し上げます。